

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392100012		
法人名	医療法人 徳政堂		
事業所名	グループホームゆい		
所在地	岩手郡岩手町大字江刈内6地割8番地9		
自己評価作成日	平成23年11月22日	評価結果市町村受理日	平成24年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0392100012&amp;SCD=320">http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0392100012&amp;SCD=320</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年12月22日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町内の中心地に位置し、交通の利便性が良く面会などにも訪れるやすく、地域のお祭りも隣接地で行われるなど、イベントにも参加しやすい。母体は医療法人であり、介護療養施設、訪問看護、居宅支援事業所などの事業所も運営しており、健康面での連携が充実しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

沼宮内駅の北東に位置し、ホームのすぐ上を新幹線が通っている。向かいには消防署、近くには大型スーパーもあり生活に便利な地域である。建物は木材をふんだんに使い、太い柱・梁・外壁が安らぎを与える。  
医療法人の利点を活かし、利用者の健康維持、管理には心強い支援がされている。開所時から使用されてきたホームの理念を、より利用者との関わりを大切にする内容に見直しをした。利用者の意思を尊重することに重点が置かれ、職員の動きは、無駄が無く機敏に利用者への対応がなされている。月1回の部署ミーティング(ゆい職員会議)は担当からの提案を中心に話し合いが活発に行われている。利用者の身体機能改善事例も多くあり、利用者に寄り添った支援が行われている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症利用者が地域で住み続けることの意味を考え直し、どのような生活が好ましいかを振り返り、今年改めて理念を部署ミーティングで検討し、新規に作成し取り組んでいる。	開所時からの理念では、「地域で長く住み続けるには」「利用者も多く接するには」に、距離があるとの意見があり、職員の意見を多く取り入れ、見直しをした。ホーム内に掲示、ミーティングで話し合いを重ねてケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会、地区子ども会との交流を保ち、夏祭りの時には施設を開放している。地区振興会からの案内や交流も図れており、地域にする利用者の交流も盛んである。	子ども会の七夕、地域の夏祭りには場所を提供した。除雪には近所の石屋さんが協力してくれる。婦人サークルの踊り、歌、月1回の傾聴ボランティアの来訪と、交流が図られている。近所からは野菜や季節のものを頂いている。敬老会は法人のグループホームと合同で行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内支援事業所から、認知症家族の相談の紹介を受けたり、地域会議への参加や地域行事の参加を通し、介護に関する負担軽減につながるアドバイスを随時受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者や業務の実情について、アドバイスや地域行事の情報をいただいたり、地域交流、処遇改善などに努めている。	運営推進会議の委員として、家族・行政・地域の方々に多く参加していただいている。会議では、利用者の安全に関してや、地域の行事予定等、活発な意見や助言を頂いている。3月の震災時には、すぐ駆けつけてくださり、ストーブや野菜等の提供などの支援を頂いた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での地域包括支援センター職員との情報交換はもちろん、日頃から連絡を取り合い町内の利用希望者や施設の利用者の情報交換を行っている。また、年2回程度の地域サービス事業所との情報交換の場にも参加し、情報を得ている。	「ゆい」の広報を年2回(家族を含めて20部)関係者や行政に配布している。包括主催の事業所打ち合わせ会が年2回開催されており、ホームの状況報告、待機者情報等協力関係が作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を行い、具体的行為について理解を深めている。また、危険行為について、根本が改善できるよう常に改善を重ねている。	勉強会を年1回開催して、拘束について確認し合っている。ホーム独自のマニュアルを作成している。睡眠に関する薬物を減らす支援と、タオル柵(数日)を家族の協力で実施することもあったが、利用者に寄り添う時間を増やしたことにより、状況は改善している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ヒヤリハットの作成や毎日のミーティングで、不適切な行為はないかなど、良質なケアが保たれるよう徹底している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームゆい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者者は権利擁護について研修を受けており、職員に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に説明し、質問できるよう雰囲気で見守っている。また、入院や退所についても家族の納得の行く対応ができるよう、要望を聞き入れている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族代表者も2名参加しており、委員と同様ホームの実情に意見を伝える機会を設けている。また、利用者の状況について、随時報告し、家族ともよく話し合っている。	家族に対して毎年アンケートを行っている。利用料は来訪して支払う方式なので、必ず家族と会話をし、近況報告や要望を聞く機会を設けている。投書箱等も備えているがこれまで投書等は無い。「寝たっきりにならないように」がどの家族も望んでいることである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署ミーティングで、各担当からの意見を吸収できるように配慮している。また、日常のコミュニケーションから、要望や希望を取り入れている。	職員と管理者の関係は良好で、意見が言いやすい状況である。風呂ボイラーの改善(追い炊き可能に)、ホーム備え付の車イス購入などが提案されて、実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って仕事に取り組めるよう、目標を持って、業務に当たるようにし、その成果をその都度評価している。また、休日は希望に添えるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外研修を頻回に行い、部署ミーティングで伝達している。また、知識や技術は日常のケアを通し、ミーティングを中心に質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に加入し、必要に応じ研修に参加している。また、ケアマネ協会にも所属し、地域の実情の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接はもちろん、できるだけ本人に施設を訪問してもらい、不安が解消できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査を行い、家族の抱えている思いを聴きだせるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接を行い、必要な支援があれば、他の施設や支援事業所を紹介し、スムーズに物事が運べるよう、連絡調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは取り上げず継続でき、さらに新たな役割を持てるよう、能力を発揮できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に日常の様子を頻回に報告し、家族と一緒に本人を支援できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	祭事場や買い物を通し、住民が集う場での交流や地域のなじみの関係者が訪れることができるよう配慮している。	散歩は20～30分ほど何人かに分かれて、全員が出かけている。食材の買出しには、利用者と職員で出かけている。衣類・靴の買い物は、行きつけの商店を利用している。2ヶ月に1度、理容店が来所して散髪しているが、出かけて行く利用者もある。	地域との交流は、年毎に築かれてきているが、利用者が出かけて行く機会は少ないように感じる。更に利用者さんと話し合い、馴染みの人や、馴染みの場所を聞き出し、対応する機会を探っていくことに期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々の性格や個性に配慮しつつ、お互いに負担のない関係が構築できるよう、職員が調整やくを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の居場所についても、関係機関と調整し、安住の場が確保できるよう、継続支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者本位の立場に立ち、物事を考え行動できるよう、常に状態を観察し、支援できる話し合いに努めている。	自分でなかなか思いを伝えることが出来ない利用者が数人いらっしゃるが、時間を掛けて寄り添い、見守りをして、思いにたどり着く事がある。職員は情報を共有している。帰宅願望、トイレ誘導、服薬確認等には全職員が対応可能である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の事前調査で、今までの生活を把握し、生活してからの症状や疑問なことは、その都度家族や関わった事業所と情報を交換し、解決に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の心身の状態は申し送りで把握し、日誌や記録に記載し、職員全員が把握できるようにしており、担当者を中心に計画の見直しを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が振り返った評価を職員全員で話し合い、3ヶ月ごとの見直しを行っている。状態が変化が見られた場合は随時、計画の見直しを行っている。	利用者ごとの担当職員がおり、ケアプラン作成には担当者を中心に検討を重ね、プラン作成に繋がっている。家族の意見も重視して、「出来ることは何でもさせて欲しい」との要望にも、対応している。寝たきりにさせないケアに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録が職員の目に毎日触れ・より、実践に半円しやすいう、ケアプランを個別記録にも添付している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や入所者の実情に応じれるよう、外出時の送迎や面会時の薬理迎えなど柔軟に対応している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームゆい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア団体による慰問、子供会との交流、図書館や美術館の利用など地域資源を活用している。今年は傾聴ボランティアとの連携を計画している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	設置主体が医療法人であり、協力病院として訪問診療・訪問看護などの協力体制を整えている。歯科、眼科、婦人科など他診療はなじみの診療を受けている。	法人医師の診療は月2回、訪問看護は週1回と連携体制が良くとられている。通院は月2回ホームで対応している。他の診療科目については、家族にお願いすることもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による訪問を受け、身体状態の報告・助言を受け、健康管理に留意している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は訪問や電話で、家族の意思も含め、主治医と協議できる体制にあり、早期に退院できるよう協同している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意思を充分汲み取り、柔軟な対応ができるよう支援している。	今年、重度化・ターミナルについての指針を作成した。入居時、本人・家族の気持ちを聞き、ホームの取り組みを話して理解をして頂いているが、その時期が来たときには、改めて本音で話をして、納得のいく対応が出来るようにしている。職員も研修を重ねて、理解を深めてきている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調不良時や急変時の対応は、往診、訪問看護を通し学ぶ機会が常にあり、知識や技術の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は、スプリンクラーと火災自動通報装置を設置している。年6回の避難訓練を計画しており、地域住民の協力を得ての開催も実施している。	平成23年度は、6回避難訓練をしている。うち2回は消防署も参加して頂き、1回は夜間想定で行っている。震災時、職員から発電機、近所からは放射式ストーブを借りて対応した。食料は備蓄分で対応出来た。非常時の対応について話し合いがされ、意識の統一が図られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失敗に対し本人が羞恥心を抱くことなく、さりげなく対応しており、プライバシーの保護にも気を使っている。	様々な対応に気を配り、誘導の声がけも本人を傷をつけてしまわないように、さり気ない言葉かけや対応に努めている。居室内が、丸見えにならないように入り口にカーテンを取り付けたり、ベッドの位置に工夫をして個人個人のプライバシーを守っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や想いが、日常会話から自然に表出できるような関係を意識しており、自己できる聞き方を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康、体調、気分を大切に、個々の入居者ペースが保てるよう配慮しており、優先事項としている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ、身だしなみを意識した生活を送ってもらう為、鏡を前にしたケアに努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、盛り付けなど、個々の能力に合わせ手伝ってもらい、食べたいものがあればメニューに関わらず提供できるようにしている。	職員も利用者と共に、昼食を食べている。歯科往診対応の方もおり、口腔支援がよく、自分の歯で食事を楽しんでいた。好み(漬物、鍋物、行事食)の食事は希望があれば対応可能としている。訪問調査日は、冬至であり、「かぼちゃかゆ」の昼食であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康にあわせ、個々の摂取量を把握し、嗜好も含め工夫した食事内容としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、能力に応じ支援し、個々のガーグルを使用している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームゆい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとにパターンを把握し、トイレでの排泄を基本としている。排泄の自立には身体能力の向上が基本にある。	自立で排泄される利用者が5名いらっしゃるが、時間を見て、それとなく声を掛けることもある。筋力の低下を防ぐ体操や、歩行訓練もしている。誘導については、一律に対応することがないように、その人にあったパターンを大事に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫はもちろん、水分、運動、下剤をコントロールし不快のない排便を促すよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の曜日を設けているが、希望や必要があればその都度対応できる。また、入浴剤の使用や他案のない入浴に努めている。	月・水・金曜日の週3回を入浴日に設定し、楽しんで頂いている。夏場はシャワー対応を随時している。足浴だけをする方もある。入浴を好まない利用者も2名いるが、対応方法を変えるなどして清潔保持に努めている。異性介助で対応することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態を把握し、寝不足、疲れなども考慮した、安眠・休息を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容が確認できるよう、個人ファイルを基に準備し、間違いのないよう個別の袋で管理している。また、個々の変化を見逃さないよう注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力にあわせた役割、活動を支援し、経験や知恵を発揮できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩、外食・ドライブなど季節に合わせて外出する機会を設けている。年に数回であるが家族の協力を得て、外出泊も行っている。	天候にもよるが、20～30分の散歩、日向ぼっこは毎日している。戸外にベンチがあり、自由に休むことが可能である。ドライブは町内・八幡平・西根方面、墓参り、紅葉と希望に沿って対応している。家族が外食に連れて行く方が5名いる。自宅に外泊する方も多い。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で行っており、買い物など必要に応じ、本人に渡し、購入意識を高めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は必要に応じいつでも使えるようにしており、年賀はがきなどは家族に協力してもらい対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆で過ごしたり、談話できるスペースを設けており、季節により装飾を変え、和めるような雰囲気心がけている。	理念を見直した夏頃から、「家」としての雰囲気が出てきた。職員と並んで座ったり、趣味(パズル・計算・花・人形)に取り組んだり、テレビを見たりと思い思いの過ごし方をしている。行事の写真、鉢花、観葉植物が置かれて雰囲気を和ませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小間や談話スペースがあり、一人で過ごしたり、数人で過ごせるようソファを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や昔使っていた品物を持ち込んだり、なじみのものを持ち込んでもらっている。	比較的、馴染みのもの等の持ち込みは多く、個性的な居室が作られている。家族写真、位牌、時計、ラジオ、釣りが趣味だった方の釣竿、裁縫道具(管理はホームで行う)と、家族も協力的である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動能力の変化に対応する為、歩行器や車椅子などを設備したほか、ベッド位置を変えてみたり、サイドレールを短くしたり工夫を凝らしている。		